

教科	数学	科目名	数学 I	単位数	3	開講対象 年次コース	1年次 必履修
使用教科書		改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)					
副教材等		改訂版 クリアー数学 I +A(数研出版)					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

数と式、2次関数、図形と計量、データの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析の基本的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に取り組む態度	場合の数と確率、図形の性質、整数の性質の見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用しようとしているか。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観 点□	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	休業明け テスト	節末 テスト
①知識・技能	考査および休業明け・節末テストの問題、授業中の練習問題	○		◎	◎	◎
②思考・判断・表現	授業中の課題、考査および休業明け・節末テストの問題	○	○	○	○	○
③主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み状況、考査および休業明け・節末テストの問題	◎	◎	○	○	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

知識の定着と処理能力の向上を図るため、長期休業期間を含めて課題の提出を求め、その取り組みを①の評価の一部とします。また、長期休業期間明けには課題の範囲の確認テストを行います。

最も重要なのは、「授業に集中してすべてを出し切る」こと。時間は自分で確保しましょう。予習→授業→復習のサイクルの確立が定着の差。自発的学習なくして真の力は得られません。ともに励みましょう！

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第1章 数と式 第1節 式の計算 【8】	2	1. 整式の加法と減法
		2	2. 整式の乗法
5	第2節 実数 【5】	4	3. 因数分解
		2	4. 実数
6	第3節 1次不等式 【9】	3	5. 根号を含む式の計算
		1	6. 不等式の性質
7	第2章 集合と命題 【9】	2	7. 1次不等式
		3	8. 絶対値を含む方程式・不等式 (章末問題)
8	第3章 2次関数 第1節 2次関数と グラフ 【8】	3	1. 集合
		2	2. 命題と条件
9	前期期末考査 第2節 2次関数の 値の変化 【8】	2	3. 命題と証明 (章末問題)
		6	1. 関数とグラフ
10	第3節 2次方程式 と2次不等式 【15】	6	2. 2次関数とグラフ
		2	3. 2次関数の最大・最小
11	第4章 図形と計量 第1節 三角比 後期中間考査	2	4. 2次関数の決定
		3	5. 2次方程式
12	第2節 三角形への 応用 【6】	7	6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係
		3	7. 2次不等式 (章末問題)
1	第2節 加法定理 【12】	3	1. 三角比
		3	2. 三角比の相互関係
2	後期期末考査 第5章 データの分析 【10】	2	3. 三角比の拡張
		4	4. 正弦定理
3	105	3	5. 余弦定理
		3	6. 正弦定理と余弦定理の応用
備考		3	7. 三角形の面積
		2	8. 空間図形への応用 (章末問題)
		1	1. データの整理
		1	2. データの代表値
		2	3. データの散らばりと四分位数
		2	4. 分散と標準偏差
		2	5. データの相関 (章末問題)

教科	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4	開講対象 年次コース	2年次
使用教科書		高等学校 数学Ⅱ (数研出版)					
副教材等		クリアー数学Ⅱ+B (数研出版)					
備考 (履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数対数、微積分について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。

2 学習の評価 (評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数対数、微積分の基本的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に取り組む態度	式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数対数、微積分の見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用しようとしているか。

(2) 評価の方法 (以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観 点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	休業明け テスト	節末 テスト
①知識・技能	考査および休業明け・節末テストの問題、授業中の練習問題	○		◎	◎	◎
②思考・判断・表現	授業中の課題、考査および休業明け・節末テストの問題	○	○	◎	◎	◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み状況、考査および休業明け・節末テストの問題	◎	◎	○	○	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

昨年度同様に、知識の定着と処理能力の向上を図るため、長期休業期間を含めて課題の提出を求め、その取り組みを①の評価の一部とします。また、長期休業期間明けには課題の範囲の確認テストを行います。
最も重要なのは、「授業に集中してすべてを出し切る」こと。演習時間は自分で確保しましょう。予習→授業→復習のサイクルの確立が定着の差。自発的学習なくして真の力は得られません。どの分野も、数学Ⅰよりも難しくなりますが、引き続き努力を続けてください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	休業明けテスト 第1章 式と証明 第1節 式と計算【9】	1 1 2 2 2 2	1. 3次式の展開と因数分解 2. 二項定理 3. 多項式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式
5	第2節 等式・不等式の証明【7】 単元テスト	2 3 1 2	6. 等式の証明 7. 不等式の証明 (章末問題)
6	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解【9】	2 2 9	1. 複素数とその計算 2. 2次方程式 3. 解と係数の関係
	第2節 高次方程式【6】 単元テスト	2 3 1	4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式 (章末問題)
7	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線【10】 単元テスト	2 3 2 3 1	1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係
8	休み明けテスト 第2節 円【8】	1 2 3 3	5. 円の方程式 6. 円と直線 7. 2つの円
9	前期期末考査 第3節 軌跡と領域【7】	2 3 3 1	8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域 (章末問題)
10	第4章 三角関数 第1節 三角関数【13】	2 2 4 2 3	1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数の応用
11	単元テスト 第2節 加法定理【10】 後期中間考査	1 3 5 2 2	6. 加法定理 7. 加法定理の応用 (章末問題)
12	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数【5】 第2節 対数関数【11】 単元テスト	2 3 3 3 1 3 2	1. 指数の拡張 2. 指数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数 (章末問題)
1	休み明けテスト 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数【7】	1 2 3 2	1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式
2	第2節 関数の値の変化【8】 後期期末考査	4 4 2	4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用
3	第3節 積分法【13】	3 3 6 1	6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積 (章末問題)
備考		140	

教科	数学	科目名	数学Ⅲ	単位数	4	開講対象 年次コース	3年次理系 選択
使用教科書		高等学校 数学Ⅲ(数研出版)					
副教材等		クリアー数学Ⅲ(数研出版)					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

関数、極限、微分法と積分法について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	関数、極限、微分積分の見方や考え方の基本的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に取り組む態度	関数、極限、微分積分の見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用しようとしているか。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度		
		授業	課題提出	単元テスト
①知識・技能	授業中の課題、単元テストの問題、授業中の練習問題	○	○	◎
②思考・判断・表現	授業中の課題、単元テストの問題	○	○	◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み状況、単元テストの問題	◎	○	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

内容が非常に濃密で、範囲が広いので毎日の復習が重要です。理系・工学系の分野には必要不可欠な内容なので、粘り強く取り組んで欲しいと思います。
最も重要なのは、「授業に集中してすべてを出し切る」こと。演習時間は自分で確保しましょう。予習→授業→復習のサイクルの確立が定着の差。自発的学習なくして真の力は得られません。どの分野も難しくなりますが、引き続き努力を続けてください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第1章 関数 【10】	2 3 3 2 1	1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数 (章末問題)
	単元テスト	1	
5	第2章 極限 第1節 数列の極限 【13】	4 4 4 2 1	1. 数列の極限 2. 無限等比数列 3. 無限級数 (節末問題)
	単元テスト	1	
6	第2節 関数の極限 【11】	3 3 3 3 2 1	4. 関数の極限(1) 5. 関数の極限(2) 6. 三角関数と極限 7. 関数の連続性 (章末問題)
	単元テスト	1	
7	第3章 微分法 第1節 導関数 【8】	3 5 1 1	1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算 (節末問題)
	単元テスト	1	
8	第2節 いろいろな関数の 導関数 【10】	4 1 3 2	3. いろいろな関数の導関数 4. 第n次導関数 5. 曲線の方程式と導関数 (章末問題)
	単元テスト	1	
9	第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 【10】	2 1 3 3 2 1	1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ (節末問題)
	単元テスト	1	
10	第2節 いろいろな応用 【6】	1 2 1 2 1	5. 方程式、不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似値 (章末問題)
	単元テスト	1	
11	第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 【8】	3 3 3 2 1	1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分 (節末問題)
	単元テスト	1	
12	第2節 定積分 【12】	3 4 4 4 2 1	4. 定積分とその基本性質 5. 置換積分法と部分積分法 6. 定積分のいろいろな問題 (節末問題)
	単元テスト	1	
1	第3節 積分法の応用 【13】	3 4 2 2 2 2	7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ (章末問題)
	単元テスト	120 1	
備考			

教科	数学	科目名	数学A	単位数	2	開講対象 年次コース	1年次
使用教科書		改訂版 高等学校 数学A(数研出版)					
副教材等		改訂版 クリアー数学 I +A(数研出版)					
備考(履修条件等)		習熟度別クラス展開					

1 科目の学習到達目標

場合の数と確率、図形の性質、整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	場合の数と確率、図形の性質、整数の性質の見方や考え方の基本的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に取り組む態度	数と式、2次関数、図形と計量、データの分析の見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用しようとしているか。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度				
		授業	課題提出	考査	休業明け テスト	節末 テスト
①知識・技能	考査および休業明け・節末テストの問題、授業中の練習問題	○		◎	◎	◎
②思考・判断・表現	授業中の課題、考査および休業明け・節末テストの問題	○	○	○	○	○
③主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み状況、考査および休業明け・節末テストの問題	◎	◎	○	○	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

知識の定着と処理能力の向上を図るため、長期休業期間を含めて課題の提出を求め、その取り組みを①の評価の一部とします。また、長期休業期間明けには課題の範囲の確認テストを行います。

最も重要なのは、「授業に集中してすべてを出し切る」こと。時間は自分で確保しましょう。予習→授業→復習のサイクルの確立が定着の差。自発的学習なくして真の力は得られません。ともに励みましょう！

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第1章 場合の数と確率 確率	2 3	1. 集合の要素の個数 2. 場合の数
5	第1節 場合の数 【14】	4 5	3. 順列 4. 組合せ
6	第2節 確率 【14】	3 4	5. 事象と確率 6. 確率の基本性質
7		3	7. 独立な試行と確率
8		3 1	8. 条件付き確率 9. 期待値
9	前期期末考査	2	
	第2章 図形の性質	1	1. 三角形の辺の比
	第1節 平面図形 【13】	2 3	2. 三角形の外心・内心・重心 3. チェバの定理・メネラウスの定理
10		2 3	4. 円に内接する四角形 5. 円と直線
		1	6. 2つの円
		1	7. 作図
11	第2節 空間図形 【5】	2	8. 直線と平面
	後期中間考査	2 2	9. 空間図形と多面体
		1	(章末問題)
12	第3章 数学と人間の活動 【18】	3	1. 約数と倍数
1		3	2. 素数と素因数分解
		3	3. 最大公約数・最小公倍数
2		2	4. 整数の割り算
		2	5. ユークリッドの互除法
3	後期期末考査	2	
		2	6. 1次不定方程式
		2	7. 記数法
		1	8. 座標の考え方
備考		70	

教科	数学	科目名	数学B	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 選択
使用教科書		高等学校 数学B(数研出版)					
副教材等		クリアー数学Ⅱ+B(数研出版)					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

数列、確率統計について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	数列、確率統計の基本的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に取り組む態度	数列、確率統計の見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用しようとしているか。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	単元テスト	
①知識・技能	授業中の課題、単元テストの問題、授業中の練習問題	○	○	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、単元テストの問題	○	○	◎	
③主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み状況、単元テストの問題	◎	○	○	

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

計算が複雑で最初は大変だと思いますが、解けたときの達成感は大きい科目です。
最も重要なのは、「授業に集中してすべてを出し切る」こと。演習時間は自分で確保しましょう。予習→授業→復習のサイクルの確立が定着の差。自発的学習なくして真の力は得られません。どの分野も、難しくなりますが、引き続き努力を続けてください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第1章 数列 第1節 等差・等比数列 【10】	1 2 2 2 2 1 1	1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和 (節末問題)
5	単元テスト	1	
6	第2節 いろいろな数列の和 【9】	3 2 3 1 1	6. 和の記号 Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和 (節末問題)
7	単元テスト	1	
8	第3節 漸化式と 数学的帰納法【10】	5 3 2 1	9. 漸化式 10. 数学的帰納法 (章末問題)
9	単元テスト	1	
10	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布【15】	2 3 3 2 4 1 1	1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布 (節末問題)
11	単元テスト	1	
12	第2節 統計的な推測【11】	2 3 2 2 2 2	6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定 (章末問題)
1	単元テスト	60 1	
備考			

教科	数学	科目名	数学C	単位数	2	開講対象 年次コース	2年次 選択
使用教科書		高等学校 数学C(数研出版)					
副教材等		クリアー数学C(数研出版)					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

ベクトル、複素数平面、式と曲線について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	ベクトル、複素数平面、式と曲線の見方や考え方の基本的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に取り組む態度	ベクトル、複素数平面、式と曲線の見方や考え方の良さを認識し、それらを積極的に活用しようとしているか。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	単元テスト	休業明けテスト
①知識・技能	休業明け・単元テストの問題、授業中の練習問題	○		◎	◎
②思考・判断・表現	休業明け・単元テストの問題	○		◎	◎
③主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み状況、休業明け・単元テストの問題	◎	◎	○	○

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

昨年度同様に、知識の定着と処理能力の向上を図るため、長期休業期間を含めて課題の提出を求め、その取り組みを①の評価の一部とします。また、長期休業期間明けには課題の範囲の確認テストを行います。

最も重要なのは、「授業に集中してすべてを出し切る」こと。演習時間は自分で確保しましょう。予習→授業→復習のサイクルの確立が定着の差。自発的学習なくして真の力は得られません。どの分野も、数学Aよりも難しくなりますが、引き続き努力を続けてください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第1章 ベクトルとその演算 第1節 ベクトル【10】	2 2	1. ベクトル 2. ベクトルの演算
5		3 3	3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積
	単元テスト	1	
6	第2節 ベクトルと平面図 【10】	3	5. 位置ベクトル
7		3	6. ベクトルの図形への応用
8		3	7. 図形のベクトルによる表示 (章末問題)
	単元テスト	1	
9	第2章 空間のベクトル 【11】	1	1. 空間の点
		1	2. 空間のベクトル
		2	3. ベクトルの成分
10		2	4. ベクトルの内積
		2	5. ベクトルの図形への応用
		2	6. 座標空間における図形 (章末問題)
	単元テスト	1	
	第3章 複素数平面【14】	3	1. 複素数平面
11		3	2. 複素数の極形式
		3	3. ド・モアブルの定理
		4	4. 複素数と図形 (章末問題)
	単元テスト	1	
12	第4章 式と曲線 第1節 2次曲線【12】	1	1. 放物線
1		3	2. 楕円
		3	3. 双曲線
2		2	4. 2次曲線の平行移動
		2	5. 2次曲線と直線
		1	6. 2次曲線の性質
	単元テスト	1	
3	第2節 媒介変数表示と 極座標【8】	3	7. 曲線の媒介変数表示
		3	8. 極座標と極方程式
		1	9. コンピュータの利用 (章末問題)
	70	1	
備考			

教科	数学	科目名	数学研究Ⅰ	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 選択
使用教科書							
副教材等		攻略！共通テストPick Up（東京書籍）					
備考（履修条件等）							

1 科目の学習到達目標

課題に対して、数学的な考え方で的確に判断し、処理する能力を育てる。

2 学習の評価（評価の観点及び評価方法）

(1) 評価の観点

観点	趣旨
①知識・技能	数学Ⅰ、数学Aの発展的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に取り組む態度	数学Ⅰ、数学Aの内容を理解することに努め、それらを的確に解答しようとしているか。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。）

観点および評価の割合	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	単元テスト	
①知識・技能	授業中の課題、単元テストの問題、授業中の練習問題	○	○	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、単元テストの問題	○	○	◎	
③主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み状況、単元テストの問題	◎	◎	○	

以上を総合的に判断して決定します。（◎はより重視される観点）

3 担当者から

数学ⅠAの基礎力の定着と確認および共通テスト対策問題を活用しスキルアップを図る講座です。この講座は予習してあることを前提に授業を展開します。「4.年間指導計画」に記載した順番で、1コマ2～3題のペース（「カギの確認」問題はその限りではありません）で進行していきます。なお、「Quick Check」については、授業では扱いませんので、各自で必ず事前に解答してください。特に、公式や定理など忘れている部分は事前に確認しておいてください。また、記載されていない問題は、原則として授業では扱いませんので、必要に応じ、各自で解答してください。わからないままにしておかないこと！わからなければ調べる、または遠慮なく質問してください！ 予習→授業→復習のサイクルを早い段階で確立することが、受験の結果を大きく左右するでしょう。
継続は最大の才能！真摯に取り組んでください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第1章 数と式・2次方程式	5	・カギの確認1, 2, 3, 4 ・練習問題1 ・実践問題5
5	第2章 2次関数	7	・カギの確認5, 6, 7 ・練習問題6, 8 ・実践問題9, 10, 13
6	第3章 図形と計量	6	・カギの確認8, 9, 10 ・実践問題18, 19, 21
	単元テスト	1	
7	第4章 集合と論証	3	・カギの確認11, 12, 13 ・練習問題23 ・実践問題25
8	第5章 データの分析	5	・カギの確認14, 15, 16 ・練習問題27, 30 ・実践問題31, 33
	単元テスト	1	
9	第6章 場合の数と確率	5	・カギの確認17, 18, 19, 20 ・練習問題34, 36 ・実践問題37, 38, 42
10	第7章 図形の性質	4	・カギの確認21, 22, 23, 24 ・練習問題43, 46 ・実践問題47
11	第8章 完成問題	11	・完成問題49~58
	単元テスト	1	
12	■共通テスト実践演習	10	※別プリントを準備
1	単元テスト	1	
		60	
備考			

教科	数学	科目名	数学研究Ⅱ	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次 選択
使用教科書							
副教材等		攻略！共通テストPick Up（東京書籍）					
備考（履修条件等）							

1 科目の学習到達目標

課題に対して、数学的な考え方で的確に判断し、処理する能力を育てる。

2 学習の評価（評価の観点及び評価方法）

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	数学Ⅱ、数学B、数学Cの発展的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に取り組む態度	数学Ⅱ、数学B、数学Cの内容を理解することに努め、それらを的確に解答しようとしているか。

(2) 評価の方法（以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。）

観 点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	単元 テスト	
①知識・技能	授業中の課題、単元テストの問題、授業中の練習問題	○	○	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、単元テストの問題	○	○	◎	
③主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み状況、単元テストの問題	◎	◎	○	

以上を総合的に判断して決定します。（◎はより重視される観点）

3 担当者から

数学ⅡBCの基礎力の定着と確認および共通テスト対策問題を活用しスキルアップを図る講座です。この講座は予習してあることを前提に授業を展開します。「4.年間指導計画」に記載した順番で、1コマ2～3題のペース（「カギの確認」問題はその限りではありません）で進行していきます。なお、「Quick Check」については、授業では扱いませんので、各自で必ず事前に解答してください。特に、公式や定理など忘れている部分は事前に確認しておいてください。また、記載されていない問題は、原則として授業では扱いませんので、必要に応じ、各自で解答してください。わからないままにしておかないこと！わからなければ調べる、または遠慮なく質問してください！ 予習→授業→復習のサイクルを早い段階で確立することが、受験の結果を大きく左右するでしょう。継続は最大の才能！真摯に取り組んでください。

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	第1章 方程式・式と証明	2	・カギの確認25, 26, 27 ・実践問題62, 63
5	第2章 図形と方程式	4	・カギの確認28, 29, 30, 31 ・練習問題64, 66 ・実践問題67
	第3章 三角関数	4	・カギの確認32, 33, 34, 35 ・練習問題72 ・実践問題73, 74
	単元テスト	1	
6	第4章 指数関数・対数関数	4	・カギの確認36, 37, 38, 39 ・練習問題77 ・実践問題79, 81
7	第5章 微分と積分	6	・カギの確認40, 41, 42, 43 ・練習問題82, 83, 84 ・実践問題88, 89, 91
8	単元テスト	1	
9	第6章 数列	4	・カギの確認44, 45, 46, 47, 48 ・練習問題96 ・実践問題99, 101
10	第7章 統計的な推測	4	・カギの確認49, 50, 51, 52, 53 ・練習問題103, 107 ・実践問題109
	第8章 ベクトル	4	・カギの確認54, 55, 56 ・練習問題112, 113 ・実践問題118
	第9章 平面上の曲線と 複素数平面	4	・カギの確認57, 58, 59, 60, 61, 62 ・練習問題122, 126 ・実践問題130
11	第10章 完成問題	10	・完成問題133~142
	単元テスト	1	
12	■共通テスト実践演習	10	※別プリントを準備
1	単元テスト	1	
		60	
備考			

教科	数学	科目名	教養数学	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次文系 選択
使用教科書							
副教材等		テスト式就職数学 数学 I・A					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

生活の中に潜む数学的な見方や考え方を必要とするものについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。また、数学と人間の関わりや数学の社会的有用性についての認識を深め、事象を数理的に考察し、処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	生活の中に潜む数学的な事象について、基本的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数理的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に取り組む態度	生活の中に存在する数学的な見方や考え方を必要とする事象を認識し、それらを積極的に活用しようとしているか。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観 点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	単元 テスト	
①知識・技能	授業中の課題、単元テストの問題、授業中の練習問題	○	○	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、単元テストの問題	○	○	◎	
③主体的に学習に取り組む態度	授業や課題への取り組み状況、単元テストの問題	◎	◎	○	

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

おもに基礎的な知識や技能の定着を目指している講座です。高校卒業時に身に付けておくべき基本的な内容を取り扱うので、進路によらず意欲的・積極的に取り組むようにしましょう。

4 年間指導計画

月	単元	業時	項目・学習内容
4	(1) 百分率と歩合 (2) 濃度・速度	4	・百分率と歩合の計算に関する基礎事項・濃度・速度に関する基礎事項についての問題演習とその習得 ・濃度・速度に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得
5	(3) 数と式 (4) 方程式・不等式 (5) 命題と論理 単元テスト	6 1	・数と式に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得 ・方程式・不等式に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得 ・方程式・不等式に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得
6	(6) 2次関数	7	・2次関数のグラフに関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得 ・2次関数の最大最小に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得
7	(7) 図形と計量	5	・三角比に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得
8	(8) 集合	4	・集合に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得
9	単元テスト	1	
	(9) 場合の数・確率	7	・場合の数と確率に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得
10	(10) 図形 (11) 面積・体積	8	・平面図形に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得 ・平面図形に関する基礎事項についての問題演習とその理解の習得
11	(12) 総合問題 単元テスト	8 1	・様々な文章題についての問題演習とその理解の習得
12	(12) 総合問題	6	
1	(12) 総合問題 単元テスト	4 1	
備考		60	

教科	数学	科目名	看護数学演習 (数学探究)	単位数	2	開講対象 年次コース	3年次理系 選択
使用教科書							
副教材等		看護・医療系のための数学 I・A(実教出版)					
備考(履修条件等)							

1 科目の学習到達目標

課題に対して、数学的な考え方で的確に判断し、処理する能力を育てる。。

2 学習の評価(評価の観点及び評価方法)

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
①知識・技能	数学 I、数学Aの発展的な概念や原理・法則の理解を深められたか。 事象を数学的に考察し、的確に処理する能力を高めることができたか。
②思考・判断・表現	様々な観点から問題を見て、論理的にかつ体系的に考察することができたか。
③主体的に学習に 取り組む態度	数学 I、数学Aの内容を理解することに努め、それらを的確に解答しようとしているか。

(2) 評価の方法(以下観点①～③は「(1)評価の観点」と対応する。)

観 点	学習到達度の確認方法	具体的取組および重要度			
		授業	課題提出	単元 テスト	
①知識・技能	授業中の課題、単元テスト の問題、授業中の練習問題	○	○	◎	
②思考・判断・表現	授業中の課題、単元テスト の問題	○	○	◎	
③主体的に学習に 取り組む態度	授業や課題への取り組み 状況、単元テストの問題	◎	◎	○	

以上を総合的に判断して決定します。(◎はより重視される観点)

3 担当者から

<p>看護・医療系大学および専門学校受験者を対象とし、数学 I Aの基礎力の定着と確認および演習によるスキルアップを図る講座です。この講座は予習してあることを前提に授業を展開します。「4. 年間指導計画」に記載した順番で、1コマ2～3ページのペースで進行していきます。特に、公式や定理など忘れていた部分は事前に確認しておいてください。わからないままにしておかないこと！わからなければ調べる、または遠慮なく質問してください！</p> <p>予習→授業→復習のサイクルを早い段階で確立することが、受験の結果を大きく左右するでしょう。継続は最大の才能！真摯に取り組んでください。</p>
--

4 年間指導計画

月	単元	授業 時数	項目・学習内容
4	■数と式	7	<ul style="list-style-type: none"> ・展開（公式利用、組合せ） ・因数分解（置き換えも含むも） ・無理数の計算 ・対称式の計算 ・二重根号の外し方 ・無理数の整数部分と小数部分 ・絶対値記号とそのはずし方
5	■2次関数	8	<ul style="list-style-type: none"> ・2次関数のグラフと移動 ・2次関数の最大・最小 ・2次関数の決定と3元1次連立方程式 ・2次方程式と判別式 ・不等式（1次、2次、連立） ・すべてのxで$f(x)>0$が成り立つ条件 ・2次関数のグラフとx軸との交点 ・絶対値を含む方程式・不等式
6	単元テスト	1	
	■集合と論証	5	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、要素の個数 ・必要条件、十分条件
7	■図形と計量	10	<ul style="list-style-type: none"> ・三角比の定義と拡張 ・三角比の相互関係 ・三角方程式・不等式 ・正弦定理と余弦定理 ・三角形の面積 ・円に内接する四角形 ・空間図形
8	■データの分析	8	<ul style="list-style-type: none"> ・度数分布と代表値 ・箱ひげ図 ・平均値、分散と標準偏差
9	単元テスト	1	
			<ul style="list-style-type: none"> ・相関係数 ・仮説検定の考え方
10	■場合の数	5	<ul style="list-style-type: none"> ・和の法則・積の法則 ・順列と組合せ ・円順列と重複順列 ・同じものを含む順列 ・組み分けと図形への応用
11	■確率	5	<ul style="list-style-type: none"> ・加法定理 ・順列と組合せの確率 ・余事象の確率 ・反復試行の確率 ・条件付き確率
	■図形の性質	4	<ul style="list-style-type: none"> ・円周角、接弦定理、円に内接する四角形 ・内心、外心、重心 ・角の二等分線と対辺の比 ・方べきの定理 ・円の接線、2円の関係
12	単元テスト	1	
	■数学と人間の活動	4	<ul style="list-style-type: none"> ・素因数分解と約数 ・最大公約数、最小公倍数 ・互除法 ・不定方程式$ax+by=c$の解 ・不定方程式$xy+px+qy=r$の整数解 ・p進法
1	■総合問題演習 単元テスト	1	<ul style="list-style-type: none"> ・別プリントを準備
		60	
備考			